

- ▶座談会「キリスト教学校と教会の連携について」
～コロナ後を見据えて～
- ▶加盟校動静、公募 (1～4面)
▶キリスト教教育者物語 (3面)
▶聖書のことは (4面)
▶行事予定 (〃)

キリスト教学校教育 6

2022・2023年度教研テーマ
希望と喜びに生きる―新たな転換期に立つキリスト教学校

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 康太
編集人 田村 浩一
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれます)
(毎月1回15日発行)

昨年横浜共立学園で開催されたキリスト教学校教育同盟の第110回定時総会では、坂田雅雄理事長先生をはじめ学園教職員の皆様に大変お世話になり、改めて御礼申し上げます。

今年は昨年と同様、「希望と喜びに生きる―新たな転換期に立つキリスト教学校」をテーマに、第111回定時総会を学校法人八代学院・神戸国際大学で開催することとなりました。

本学院は丁度60年前の1963年4月、神戸市垂水区にある学が丘で「八代学院高等学校」として開校したのが始まりです。創立者は当時日本聖公会首座主教をしており、わたしの祖父に当たる八代斌助ですが、設立理事のほとんどは祖父が他界するまで司牧していた神戸聖ミカエル教会信徒の方々です。聖ミカエル教会によって建てられた学校といっても過言ではないでしょう。この聖ミカエル教会は宣教140年を超える、聖公会でも歴史ある教会のひとつですが、外国人宣教師によって建てられた学校をミッションスクールと定義するならば、本学院は日本人の主教と信徒たちによって建てられたという意味でミッションスクールではありません。しかしながら「聖公会キリスト教の精神に基づき」教育することを設立の目的(建学の精神)としている点では、大いにミッションスクールといえるでしょう。

そして学院創立から5年後の1968年、高校に隣接する

八代学院・
神戸国際大学に
ようこそ



八代 智

第111回定時総会
6/2(金)～3(土)
学校法人八代学院
神戸国際大学で開催

ように大学が開学されました。最初は「人間学部」として当時の文部省に申請しましたが前例がないということで却下され、次に「社会福祉学部」でも認められず、「経済学部」でようやく認可されました。このような設立の経緯がありますので、現在もなお人間の尊厳や福祉に貢献する経済学を提唱しています。

また本学院の設立の目的には、聖公会キリスト教の精神に続いて「国際社会に通用する人材を育成」することも掲げられており、1992年には校名を八代学院大学・八代学院高等学校から国際教育をさらに充実させる願いを込めて、「神戸国際大学」・「神戸国際大学附属高等学校」と改名しました。さらに高大共に生徒・学生数の増加に伴って2002年、大学を六甲アイランドに移転して現在に至っております。また移転してから経済学部のみで単科大学でしたが、2009年には人間のあらゆる尊厳の回復を願いつつ、「リハビリテーション学部」を新たに開設して14年目を迎えました。

学院としてはやっと60年を迎える記念すべき年に本学で定時総会を開催していただくということで、キリスト教学校教育同盟加盟校の皆様方と共に本学院の還暦祝いをご一緒するようで嬉しい限りです。今後共加盟校の皆様とのお親交を深めつつ、キリストの福音の種を蒔き続ける働きを続けることができますよう、皆様のご加勢を切にお願い申し上げます。
〈八代学院理事長〉

座談会

キリスト教学校と 教会の連携について ～コロナ後を見据えて～

(2023年3月25日・教育同盟事務局にて)

本紙3月号のアンケートでは、加盟学校各校が学校と教会の繋がりの回復に向け、同じように検討・活動再開をしていることが分かりました。この座談会では、教会との関わりについての方向性という視点からというよりはむしろ、各校の具体的な取り組みをうかがうことで、加盟校の皆様の今後の教育活動へのヒントになればと願っております。

【司会より】

各校の 現状

- 〈出席〉(発言順・敬称略)
- 栗原 健 宮城学院女子大学宗教センター長
- 五十嵐 依恵 青山学院大学系属浦和ルーテル学院
小中高等学校宗教部主任
- 伊藤 多香子 関東学院六浦中学校・高等学校宗教主任
- 金田 俊郎 福岡女学院看護大学宗教主事
- 早川 寛 西南学院中学校・高等学校校長
- 田村 浩一 〈司会〉
香蘭女学校中・高・高等科キリスト教
センター委員、教育同盟広報委員長

司会 本紙3月号で「キリスト教学校と教会の連携について」をテーマにアンケートを取り、多くの教職員の皆様にご回答いただきました。今日はご出席者所属校での具体的なお話を伺ってまいりたいです。まずは、コロナ後の教会とのつながりや子どもたちの教会出席の変化をお尋ねします。

栗原 大学では、信徒である学生の数を数えていないので教会への出席状況は分かりません。中学・高校については教会出席のレポート課題があり、学校礼拝のレポートに替えたものの、教会に行けなくなったことの影響は大きかったはずなんです。幸い昨年から再開して生徒たちも教会に行けるようになりました。

五十嵐 緊急事態宣言後、生徒児童の教会出席は激減しました。学院からも「教会に行きましよう」「キリスト教強化月間です」「レポート提出を」といった勧めはなかなか声に出せませんでした。熱心なクリスチャンホームのお家は教会につながっていましたが、2023年に向けての教会出席状況の集計では以前のように戻りつつあります。

伊藤 六浦中高は教会出席を経験できないということにならないよう、必

修レポートもあるのですが、オンライン礼拝配信のある教会を紹介しました。生徒のレポート提出のためクリスマス礼拝の配信期間延長をお願いしたこともあり、普段はなかなか行けない東京都内の教会の礼拝に出席する生徒が増えるなど、想定外のこともありました。ただ、その後続けて教会に行くことにつながっているから、教会と共に考える課題だと思っています。

金田 コロナ前後ではつなぐに大きな変化がありました。学生生徒はキリスト教の課題で教会のレポート提出がありましたが、やはりオンラインでの礼拝出席をレポートに替えるを得ず、一方的にオンラインを視聴してレポートを提出することになりました。また、学校のチャペルに近隣の牧師先生を月に数回呼び寄せることもできなくなりました。出席者の数は大幅に減ることになりましたが、その回復を新年度に期待し、切り替えてより積極的に呼びかけるようと考えています。

早川 福岡県は東京都や大阪府に比べて、コロナの感染状況が悪い県でしたが、高齢者の方が多い教会に学生などを大勢出席させることは、ご迷惑になるだろうと思ひ、教会レポート等を課すことができない状態が今も続いています。おそ

く、23年度からは以前の状態に戻せるのではないかと期待しています。この3年間、生徒たちが自ら教会に行くきっかけ作りを学校がしてあげることができませんでした。司会 香蘭女学校はすぐお隣に学校と同じ聖公会の三光教会があって、学校のチャペルの役割も果たしています。教会で会場が必要な時に学校の施設を使い、また学校も教会を利用することを続けてきました。たとえば、新任の教職員の就任式の礼拝、成人した卒業生が集う礼拝、学期に1回の学年礼拝、などです。教会バザーのお手伝いやクワイヤー/人形劇部など生徒の奉仕活動もありましたが、教会自体もオンライン礼拝が続く、今は残念ながら教会との関係が具体的に持てません。礼拝への出席や教会での子ども食堂のお手伝いは生徒の自主性に任せてきましたが、学校と教会との以前の関係が復活するにはなかなか時間がかかると思っています。



オンライン併用で開催

教会との 連絡

五十嵐 コロナ禍にあっての教会との連絡というのは、学内対応も重なる中で大変だったと思います。この「教会との連絡」というのが、私たちの学院ではコロナ前から元々できていたことで、どのように学校が教会と連絡をとっているのかを伺えます。

伊藤 関東学院は、大学施設であるチャペルを「関東学院教会」という日本バプテスト同盟の教会が使用しています。この教会の牧師にバプテスト同盟との連携、情報共有をお任せしています。私は日本基督教団の牧師なので、教団の牧師や教会にSNSで連絡を取り続け、学校での礼拝説教に頼り、教会の礼拝等のチラシも送っていただきました。クリスマスやイースターにオンライン上のすべての情報を自分たちで集めるのは難しいので、チラシを掲示板に貼

もう一つは、以前は近隣の教会に学院の役職者を派遣し、そこで証しや説教をするという取り組みがあり、それも復活させたいです。あとは、西南学院は日本バプテスト同盟との関係を持っていますので、1年に1回、連盟の理事の方たちと学連盟の役職者が懇談をする場があります。

金田 福岡女学院でも同じように牧師先生を招待しての懇談会をしておりますが、この3年間はできませんでした。本学

つて、聖書科の非常勤の先生方にも協力いただけてリストを作り、生徒に配布しました。

早川 西南学院ではコロナ前、市内近郊の教会の牧師や信徒の方と学院の役職者による懇談会を行っていましたが、それを再開し情報交換を行う機会を復活させることを願っています。やはりこの3年間で学校も教会も変化していると考えられますので、双方の実情に関する情報交換の場を設けて、双方がどのような協力体制をとることができているのかという、協議の場が必要だと思います。

一般社団法人キリスト教学校教育同盟
2023年度「キリスト教学校
教育振興助成」の募集について

キリスト教学校教育を推進する研修・研究等への助成制度です。要項・申請書等詳細は教育同盟ホームページ(トップページ「お知らせ」)をご覧ください。

助成金 総額600万円
日程 6月10日(土) 申請締め切り
7月4日(火) 助成先発表(HP)

勤講師各1名

金田俊郎氏

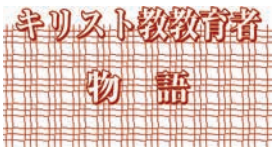
(3面よりつづく)

これから協力体制、具体的な方策が見えてくるので、新しいコミュニケーションを作り始めていくという話があります。高齢化校が協力できることは何となくある具体的な何かを「始めてみる」ということがあっていいという具体的な協力という場を設けることが必要。今、問題を抱えている高度成長期のニューと、それをヒントにちょ

ミス・エレノア・メアリー・フォス

(1908〜2002)

立教英国学院



97



プール学院短期大学初代学長ミス・エレノア・メアリー・フォス先生の日本での働きについては、それを記念して学校を公開し、生徒たちが様々な形で地元の人をもてなしました。その後、毎年秋にオープンデイを開催することが伝統となつて今に続いています。また、ミス・フォスから伝授された英国の地に本校を創立した初代校長の縣康先生の後を引き継ぎ、日本聖公会の大久保主教に請われて一年の約束で校長を引き受けられ、開校してまだ日も浅く様々な課題に直面していた本校のために尽力されました。

当時新任であった東博子元教頭によると、着任した夜に寮の自室のベッドに入ったら足元に湯たんぽがあつてびっくりしたそうです。4月でもまだ肌寒い英国の夜に日本から来たばかりの新任のために下されたフォス校長の気遣いでした。当時は学校の財政状況が大変厳しく、ミス・フォスは「私は年金をもらっているのでも月給はいりません」とおっしゃって

〈元立教英国学院校長〉

棟近 稔

つと思いました。若い人をまず送る。週報を折る。そこで「週報というものがあつた」ということを知ることも大きいけれど、みんなでもちよつとやるだけというのでもないです。教会からお話に来てもうただでなく、教会に行つて具体的な何かをして、「じゃあ今度はこれをやってみよう」と続くように、まず始めてみてはどうかと思ひました。

栗原 一つ現実的な問題として、旧統一教会の問題が出てしまいましたので、「教会」と称するものに対して学生の警戒心が高まつてしまつたようにも思ひます。その一方、コロナが一段落したため学生は社会とのつながりをもつと取り戻したいようです。たとえば、先ほど出ましたコミュニケーション活動への参加意欲もある。その辺りをつなかりに教会とのつながりを深めることはできそうだと思います。ただ、一つの教会にそれを期待するのは荷が重いですね。地域の教会がいくつか集まつて、そういうことに関わるようにしていくと、より大きなつながりになるかも知れません。実際、子ども食堂の話を聞いて「参加してみたい」という学生は結構います。

司会 カルトの問題は大学では大きく、それを抱えながら、しかし同時に、そのコミュニケーションと関係性を持てなかつた何年間かを過ごした大學生が求めているのは確かですね。教会と学校の関係にそのチャンスがたきさんありそうです。金田 確かにボランティアは良いきっかけだと思います。エキシニカルでもあり、いろんな教会の人たちと交わり、学生自身もそういう具体的な手を使つたり体を動かしたりして働く場を非常に求めているところもあります。そんな場をきつかけに教会との関係を回復していただくと願ひます。たとえば先ほどのようにホームレス支援や子ども食堂の活動をやっていく教会もありますが、それらには学生も自分で手を挙げて行くんです。もう一つ、伊藤先生が書かれたアンケートの中に、不登校の生徒のフォローを教会で考えておられるというのがあり、これはなかなか新しい画期的な取り組みだと思ひました。何か具体的な動きをなさっていますか。

伊藤 登校しづらい生徒やカウンセリング室登校の生徒が何人かいます。が、学校に来るつてとても勇気の要ることです。横浜市はその対策が整つていて、フリースペースとかフリールームというところに行くとか登校としてカウントされます(中略)学の場合。初めのうちは公立の生徒のみが対象でした。私学、特にキリスト教学校の生徒はどこに通えばいいのだろうかと悩んでいた時に「教会だつたらどうだろう?」と思ひ始めて、平日に教会を利用させていただけなのだろうか?と何人かの牧師先生にご相談しました。役員会までご相談が届き、多くは前向きに検討をしてくださつています。神奈川県には、私学就学支援センターがあるのですが、私学に入学した生徒も保護者も、合格と入学を誇りとしているし、卒業証書を受け取りたいと願ひています。私学のための「就学支援センター」が設立され、学校と慎重に検討しながらセンターで学んだことが卒業要件に生かされることになりました。ただ現在ではセリターも生徒があふれています。またセンターでは宗教教育が十分に行えないという問題もありました。そこで教会に視点移しました。教会は平日の昼間であれば人が少ないし、教会でじつと語りが期待できるのではないかと思ひました。実現には就学支援センターの方々の理解を得たり、教育委員会と話をしないといけないので、すぐには実現しないでしょう。ただ、しっかりとシステムでなくても、教会が「うちの教会にいつでも来ていいよ」と受け入れてくれたら、カウントにはできないけれどそこに行つたことを記録はできます。その子がとにかく引きこもらないでどこかに出るために教会が力を発揮してくれたらありがたいです。

コロナの時に失われたものは多くあつて、生徒、保護者、教師、すべての者にとつて失つたものがあります。あの2年間、何度絶望を繰り返したか。「延期」、「変更」、「中止」、が繰り返された中で希望を失ひそうでした。しかし「福音」はその失われたものを満たす力を持っています。これは希望につながる道です。教会がその希望を語ってください、「大丈夫だよ!」というメッセージを私は教会に期待し、学校でもメッセージを送るべきだと思います。失われたものをしっかりと見出す期間がこれからの半年で、その後の半年で「それをどう埋めていくか」を教育界できちんと取り組まないと、学校全体がその後2年、3年後にかなりしんどくなるかなと思ひます。そこで教会とタッグを組めるのだったら、やはり教会でもよいからやり続けるべきだと思ひます。今までの協議会はオンラインで以上にお互いの、学校と教会が手を組んでやれやれたらいいなと思ひます。今日はありがたいございました。

伝える一番の働きを私では、教会に担つていただけたらと思ひます。今日は寄り道もあつたと思ひます。司会 それがこの3年間で気付かされたことでもあり、今失つたものでもおそらく主筋はそれです。向で教会とお互いに協力し、情報を共有しながらやれたらいいなと思ひます。今日はありがたいございました。

永吉 穂高

「人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います」(コリントの信徒への手紙一7章7節)

金子みすゞさんの「みんな違って、みんないい」という言葉を、どこかで聞いたことがあるでしょうか。「みんな違ってみんないい」なんて、当たり前のことです。なぜわざわざこの言葉を伝える必要があるのか。それは、わざわざ言葉にしなければ、そのことを忘れてしまうからです。日本では、集団行動を求められる機会がたくさんあります。周りに合わせたり、一緒に行動する。そこに別行動を取ったり、どこかにフラフラ行ってしまう人がいたらどうか。周りが困るのです。そうやって、同じ行動を取ったり、協力したり、力を合わせる機会があるだけ、



お忙しい中お集まりいただきました。

聖書のこぼれ



永吉 穂高

「違う人」は浮く。「違い」が、良くないものとして人の目に映ってしまひます。だからこそ、「みんな違ってみんないい」という言葉は、聞くたびに「あ、そうだよな」と、じんわりと気づきを与えてくれるのです。

本来人間とは、個性的です。違いは、それが見える部分か、見えない部分かという、ほんの些細なものです。

まだ何も植えられていない植木鉢・花壇などを思い浮かべてみてください。そこにはただの土が入っています。あなたは何の花を植えますか。

きれいな花はたくさんあります。何を植えようか考えるだけで夢は膨らみます。もちろん種や球根が無ければ、花は咲きません。けれども土にこそ、どんな花でも咲かすことが出来る凄い力があるのです。

生きる一人ひとりが、そのような凄い力をもっている土に似ています。夢を叶える力が、すでにあなたの中にあるからです。

勉強やスポーツができる。イケメン・美人だ。面白い・人気がある。いい学校に入る。目指した仕事に就く。それぞれの咲かせたい花は違うでしょう。けれども、「何にでもなることができる力」が、今すでにあなたの中にあるのです。

〈九州ルーテル学院中高チャプレン〉

行事予定	
6/17	第68回東日本小学校教職員協議会 (青山学院初等部)
7/22~24	第67回事務職員夏期学校 (御殿場市・東山荘)
8/1~3	第10回中堅教員リトリート (同志社びわこリトリートセンター)
7~8	第8回全国災害支援連絡会議 (九州ルーテル学院大学)
10~12	第3回教員リフレッシュ合宿 (奈良県御所温泉)
17~19	第56回全国聖書科研究集会 (捜真学院)
23~24	第13回中堅事務職員リトリート (同志社今出川キャンパス)
25	第10回大学新任教員研修会 (オンライン)

事務局だより

この春、早稲田の街は多くの学生で賑わい、コロナ前のように留学生の会話も耳にする様になり

ました。すっかり日常を取り戻した様ですが、一方で古い飲食店の閉店に気づきます。加盟校では先生方から、生徒の体力や集団行動について、3年間の空白、再構築の必要、リハ

ビリ等の言葉を伺います。学校礼拝も大きな影響を受けました。大切な礼拝や個々の教会との関係回復について、今号の座談会記事が良いヒントとなります様に。

事務局長